

日本列島2017

ニュース追って

2

「あおり運転」で停止の夫婦 追突死



東名高速道路下り線の事故で移動される車両＝6月、神奈川県大井町(車のナンバーを画像加工しています)

東名高速夫婦死亡事故 6月5日夜、神奈川県の東名高速道路で静岡市の一家のワゴン車にトラックが追突し、夫婦が死亡、娘2人がけがをした。起訴状によると、石橋和歩被告(25)が現場直前のパーキングエリアで駐車方法を注意され逆上、ワゴン車を追い掛け停止させたとしている。

ていた車のドライブレコーダーや目撃証言から「減速して接近する行為を繰り返す、具体的な速度も明らかにされた」(捜査関係者)として、より罰則の重い危険運転致死傷罪での起訴に踏み切った。

だが、公判では車を停止させる行為や、その約3分後に起きた事故を危険運転罪に問えるかが争点になるとみられる。

夫婦の車の進路をふさいで停止させ事故を誘発したとして、神奈川県警は10月10日に石橋和歩被告(25)を逮捕した。大型トラック追突までの経緯が報道されると、あおり行為など悪質運転への自衛策としてドライブレコーダーの売り上げが急増した。

神奈川県警の当初の逮捕容疑は同法の過失致死傷罪。横浜地検は同31日、捜査で当時通行し

品販売店ではドライブレコーダーを買って求める人の姿が見られた。購入を検討していた50代男性は「事故でトラブルになった際、画像で証拠も残り安心だ」と話した。

神奈川県大井町の東名高速道路で6月、追い越し車線に無理やり停止させられた夫婦が追突死した事故は、来年も裁判員裁判が始まる見通しだ。事故時に車を降りていた被告に「運転行為」を前提とした自動車運転処罰法の危険運転致死傷罪が適用できるのか。専門家の賛否も割れており、公判では最大の争点になる見込み。検察側は立証に全力を挙げる方針だ。

「運転行為」で起訴に賛否

誰もが悪質運転の被害者になる可能性はあるが、高山弁護士は「裁判員には冷静な判断が求められる」と指摘した。